



看護部通信



2018年10月

9月6日未明、北海道胆振地方中東部を震源とする最大震度7の地震が発生しました。北海道庁から県に対し、厚生労働省を通じて派遣要請があり、当センターからは、同日夕方現地に向け災害派遣精神医療チーム（DPAT）が出発しました。青森港からフェリーで北海道入りして被災地での支援活動を行い、12日夜に帰還したDPATメンバーの皆さん、本当にお疲れ様でした。そして何より、被災地の皆様の安全と一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。（看護管理室）

薪ストーブの話

外来 T

我が家の暖房は、薪ストーブです。夏の終わりに薪屋から一冬分の薪が配達されます。秋田では薪を注文する場合、釜（かま）単位で注文します。我が家では一冬3～4釜使用します。満杯になった薪棚を見ると、厳しい冬の寒さに備えた気分になり、とても安心します。

夏やストーブを稼働する前に、煙突の掃除をしなければなりません。火力調整においては、今では自在に調整できるようになりましたが、技術習得に数年かかりました。薪ストーブは、“面倒”“大変”“留守の間の火が心配”など、マイナスイメージが大きいかもしれません。しかし、それ以上に、薪が燃えるパチパチという音や、赤く燃えている様を見ていると、癒され、気持ちの安らぎが得られます。

玄関の扉を開けた瞬間の、ふんわり暖かいあの感じが、今からとても待ち遠しいです。



薪が燃える音を聞き、真っ赤な炎を眺めながら暖をとる暮らし…。贅沢で素敵な時間を過ごしていますね。



初めての医療相談連携室

連携室 H

医療相談連携室の一員となって半年が過ぎました。スタッフの温かいご支援のもと、緊張した電話の呼び出し音にも慣れ、口がもつれながらもなんとか対応できるようになりました。

連携室の看護師としての重要な役割は、「入退院支援」です。今年度の診療報酬改定で、これまでの「退院支援加算」に変わり、「入退院支援加算」が新設されました。これについて、詳しくは今年度9月発行の「リハセン便り第63号 医療相談連携室より」をご覧ください。



また、県南地域に根差した地域包括ケアシステム構築を推進するため、秋田県南連携実務者ネットワーク「県南ほっこりネット」が立ち上がり、7月の第1回研修会に医療相談員と共に参加しました。県南の病院・施設などから多職種が集まり、日頃の連携でリハセンに対する評価の言葉も頂きました。顔の見える連携、声で繋がる連携、どちらも大切にしなければと身が引き締まる思いでした。そして、日々丁寧な対応で相手との信頼関係の構築に努めている医療相談員に一礼。